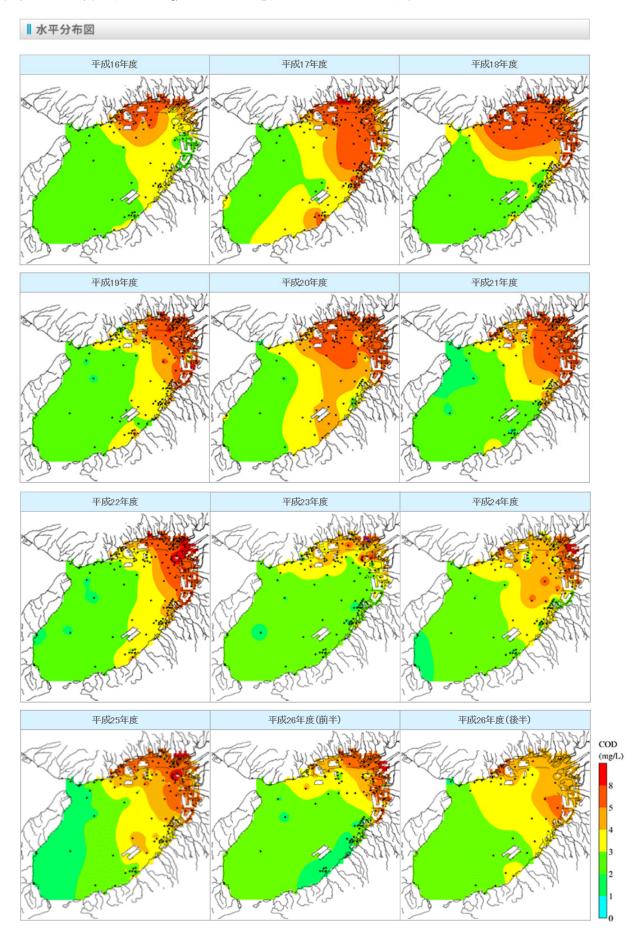
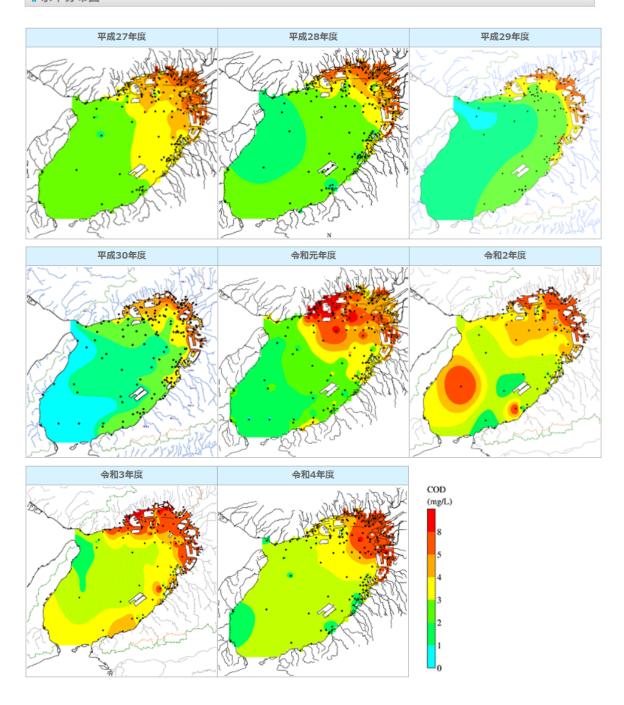
COD(表層)の分布図・経年変化図

表層のCODは、淀川や大和川などの河川が流入する大阪湾の北東側で高く、西側で低い傾向がみられます。

本調査結果は、夏季1回の結果であり、調査実施時の気象・海象の状況による影響を受けています。 調査日前に降水量が多く、大規模な出水がみられた平成18年度は、表層CODの高い面積が大きく なっています。一方、調査日前に台風が接近した平成16年度、23年度及び平成26年度後半は、 表層CODの高い水域(5mg/L以上)の面積が小さくなっています。





|| 経年変化図

